



The 47th Annual Meeting of the Japanese Society of Respiratory Care Medicine
第47回日本呼吸療法医学会学術集会

コーヒーブレイクセミナー

Coffee Break Seminar

日時

2025年8月30日(土) 14:40~15:20

会場

第9会場 グランキューブ大阪(大阪国際会議場)
3F イベントホールA

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3-51

小児在宅人工呼吸療法における 遠隔モニタリングの有用性と課題

座長

長谷川 久弥 先生

東京女子医科大学附属足立医療センター
新生児科 特任教授

演者

小寺 孝幸 先生

加古川中央市民病院 小児科 科副部長

本セミナーは整理券制ではありません

直接会場にお越しいただき、先着順にご入場いただきます。
なお、軽食数には限りがございますので予めご了承ください。

共催：第47回日本呼吸療法医学会学術集会
フクダ電子株式会社



The 47th Annual Meeting of the Japanese Society of Respiratory Care Medicine

第47回日本呼吸療法医学会学術集会

コーヒーブレイクセミナー

Coffee Break Seminar

小児在宅人工呼吸療法における 遠隔モニタリングの有用性と課題

小寺 孝幸

加古川中央市民病院 小児科 科副部長

在宅呼吸器には使用時間、治療データ、アラーム履歴が保存されている。当院では、2017年より小児在宅管理に呼吸器保存データの活用を開始し、2021年からは遠隔データ管理システム（以下遠隔システムとする）を導入した。遠隔システムにより呼吸器の治療データがサーバーに自動転送されるようになり、任意のタイミングで直近のデータを確認することが可能となった。

当院では2025年6月時点で、58例が遠隔システムを導入しており、うち25例が気管切開下陽圧換気（TPPV）、33例が非侵襲的陽圧換気（NPPV）である。運用方法は、週1回、定時に医師がデータを確認し変化がある例への対応を行い、月1回の外来受診時にはデータをレポートに出力し患者・家族へフィードバックしている。

遠隔システムの有用性が特に高いのはNPPV例である。NPPVでは、使用時間、マスクフィットの指標となるリーク量、効果の指標となる無呼吸・低呼吸指数（AHI）の経時変化に注目し、問題の早期発見に努めている。当院で乳幼児期にNPPVを導入した例の治療継続率を調査すると、遠隔導入前13例では69.2%に対し、導入後14例では77.8%と上昇していた。またTPPVにおいても、リーク量、換気量などの変動から、気管切開カニューレの閉塞や予期しない設定変更を発見できた例がある。

海外ではすでに呼吸器の遠隔モニタリングが普及しつつあるが、国内ではあまり活用されていない。その要因として、監視の義務が生じるのではないかと、誰が、いつデータを確認すべきなのか、という問題があるのではと考えている。遠隔モニタリングとの上手な付き合い方、今後の活用方法について考察していきたい。

共催:第47回日本呼吸療法医学会学術集会
フクダ電子株式会社